（別紙様式4）

令和5年10月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
せいとく介護こども福祉専門学校	昭和51年4月1日	野村　昌昭	〒　064-0811 （住所）　北海道札幌市中央区南11条西8丁目2番47号 （電話）　011-512-1321
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人 成徳学園	昭和39年3月27日	髙田　研司	〒　064-0811 （住所）　北海道札幌市中央区南11条西8丁目2番47号 （電話）　011-512-1321

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
教育・社会福祉	教育社会福祉専門課程	こども福祉科	－	－	－

学科の目的	教育社会福祉との綿密な連携を通じ、より実践的な職業教育の質と確保に組織的に取り組み、卓越した実務の知識・経験に基づく高度で専門的かつ実際的な知識・技術等を身につけ、教育社会福祉施設に必要な実践的な能力を育成するための専門課程を創設することを目的とする。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	保育士（両コース）、幼稚園教諭（保育士・幼稚園教諭コースのみ）、 幼児体育指導者2級（保育士コース、保育士・幼稚園教諭コース希望者）、こども環境管理士（保育士コース希望者）、手話検定（保育士コース希望者）、

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,900 単位時間	585 単位時間	825 単位時間	430 単位時間	0 単位時間	60 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
160 人	36 人	0 人	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 30	人
■就職希望者数 (D)	: 30	人
■就職者数 (E)	: 30	人
■地元就職者数 (F)	30	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	100	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	100	%
■進学者数	0	人

■その他

0

（令和　　4 年度卒業者に関する令和４年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和4年度卒業生）

児童福祉施設（保育園、児童養護施設等）、教育施設（幼稚園）、障がい者支援施設など

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　　受審年月：　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

https://www.seitoku-g.ac.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	0 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	0 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	0 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位
うち必修授業時数	0 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	人
計		人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

教育福祉施設及びその他の関係機関との連携を充実させ、情報の共有や社会的ニーズの把握・分析を通して、地域や学校の教育方針をいかした特色ある教育課程の編成や効果的な教育方法の改善・工夫を行い、実践的かつ専門的な職業教育の基盤づくりに努める。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長のもとに位置する常設委員会の一つとして組織され、教育課程編成委員会でのアドバイスや意見などを受けて、教育課程編成の最終決定審議機関である校務会によって現状確認と今後の対策について検討して具現化していことにより教育の充実を図る。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
福　島　義　典	特別養護老人ホーム　みどりの丘	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	①
柴　野　邦　子	札幌光星はとポッポ保育園	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	③
瀬　戸　雅　嗣	特別養護老人ホーム　厚別栄和荘	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	③
高　島　裕　美	名寄市立大学	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	②
角　谷　　毅	札幌わかくさ幼稚園	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	③
野　村　昌　昭	せいとく介護こども福祉専門学校学校長		ー
小　野　千　晴	せいとく介護こども福祉専門学校教諭		ー
藤　田　留　美	せいとく介護こども福祉専門学校教諭		ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回　（6月、2月）

（開催日時（実績））

第1回　令和4年6月23日　10:00～11:30

第2回　令和5年2月28日　10:00～11:30

0

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

現代の学生の状況を背景に、専門教科等の習得だけではなく、コミュニケーション能力を磨くための指導・教授内容の工夫に注力することが専門分野で活躍する人材育成には重要であることを再確認。「相談援助」「保育相談支援」「応対論」などの対人関係を学習する教科にて、コミュニケーション能力が身に付くための内容を確認し、改善できるような取り組みをした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

施設現場において、学生が対人援助を実践的に学ぶために、挨拶など人と接するための基本や、チームワークにおける報告・連絡・相談などの心構えを十分に備え、さらに学習目標を明確に設定したうえで、有意義な実践を行えるよう事前学習を徹底する。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

「保育実習の手引き」「教育実習の手引き」により、目標とする知識と技術を明記。実習施設と、事前打合せ、原則実習期間中の1回の巡回訪問等を通して総合的に実習評価をしている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
保育実習Ⅰ （福祉施設）	習得した教科全体の知識、技術を基本とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、以下のように児童及び施設利用者に対する理解を通じて保育および支援の理論と実践について習熟する。 ①施設で生活している児童または利用者への理解を深める。　②施設の役割、機能について実際に見聞する中で理解を深める。 ③保育士およびその他の職員の役割、仕事の内容、求められる知識や技術の実際を学ぶ。 ④施設での実践を通して児童観・利用者観・施設　観を作っていく。	柏葉荘・札北荘・白石かがやき園・ノビロ学園、石山センターほか
保育実習Ⅰ （保育所）	習得した教科全体の知識、技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、以下のように児童に対する理解を通じて保育の理論と実践について習熟する。 ①乳幼児の実態に触れ、理解を深める。 ②保育所の社会的機能や役割を理解する。 ③保育士の仕事や内容、役割について学び理解する。	札幌市しせいかん保育園、札幌はこぶね保育園、幌南華園保育園、菊水すずらん保育園、平岸友愛認定こども園 ほか

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 ・授業力と実践的生活指導力の向上を図るため、資質向上及び専門性を高める研修を実施する。 ・社会的ニーズを背景に、本校研修規程に基づき、施設等から講師を招いての実務に関する研修や勤務経験年数に応じた職能団体等への研修への参加を実施する。また、職能団体等への研修を参加した場合は、学内で学科の専任教員・非常勤講師に対して研修内容の伝達を行い、授業に関連した領域でグルーピングした教員・非常勤講師間での知識等の共有と確認を行う。 ・全国保育士養成協会等が主催する研修会の参加教員が、全職員に対して伝達講習を行う。 ・指導法の研修については、「学生の集中力を高め、実感の伴った学びを作る」ことを目指して、担当教員あるいは外部講師による研修を実施。また、すべての科目について学生による授業評価を行い、評価内容を随時授業改善に生かしたり、学生からの評価の高い教員の授業を講師及び非常勤講師が自由参観し、その後の指導法改善のヒントを得るなど等、個々の教員の改善努力に活かせる体制づくりをする。
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等
研修名：　令和4年度　全国保育士養成セミナー　　連携企業等：全国保育士養成協議会 期間：　令和4年8月25日～26日　　対象：こども福祉科教員 内容
研修名：　第64回北専各連学校教育研修大会　　連携企業等：全国専修学校各種学校総連合会北海道ブロック 期間：　令和4年９月５.日～6日　　対象：0 内容
②指導力の修得・向上のための研修等

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等
②指導力の修得・向上のための研修等

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動・学校運営等について自己点検・自己評価に基づいて学校関係者評価を実施して、教育活動のさらなる向上と学校運営の改善を進めていくものとする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	（1）教育理念・目標
（2）学校運営	（2）学校運営
（3）教育活動	（3）教育活動
（4）学修成果	（4）学修成果
（5）学生支援	（5）学生支援
（6）教育環境	（6）教育環境
（7）学生の受入れ募集	（7）学生の受入れ募集
（8）財務	（8）財務
（9）法令等の遵守	（9）法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	（10）社会貢献・地域貢献
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

本校の学校運営や学生指導等を理解していただいた上で、卒業生・入学生アンケート調査や学生自己評価等の客観的なデータより評価をいただいた。それぞれに課題が出てきており、今後はその課題を精査して、さらなる教育環境の整備と安定した学校運営を目指し、次年度以降に反映させていく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
青　木　孝　志	生活介護事業所　ゆめくる　元施設長	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	企業等委員
岸　本　隆　美	社会福祉法人　ほくろう福祉協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	卒業生
柴　野　邦　子	光星はとポッポ保育園　前園長	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	企業等委員
瀬　戸　雅　嗣	特別養護老人ホーム　厚別栄和荘	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL：　https://www.seitoku-g.ac.jp/

公表時期：　R5年10月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、ホームページを中心とした情報公開を行うものとする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校概要
（2）各学科等の教育	カリキュラム、在学状況、就職状況
（3）教職員	教員数、教員研修
（4）キャリア教育・実践的職業教育	就職指導
（5）様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ・課外活動・年間行事・施設設備
（6）学生の生活支援	教育相談・居住先訪問
（7）学生納付金・修学支援	学費サポート制度・奨学金制度
（8）学校の財務	資金収支計算書・事業活動収支計算書・貸借対照表
（9）学校評価	学校関係者評価
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
ホームページ
URL：　https://www.seitoku-g.ac.jp/
公表時期：　R5年10月

授業科目等の概要

	#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			憲法	国家の根本法である憲法に定める国家の組織・作用および基本的人権について、総合的な知識の習得を目指すとともに、主権の担い手である国民として、現実に発生するあらゆる政治的諸問題に関心を持ち、自分なりの判断ができるように、人権の存在意義や我が国の政治のあり方について理解を深める。	1	30	2	○			○			○	
2	○			経済学	1　経済学の基本原理を習得することにより、現代社会における経済の役割を理解する。 2　社会福祉や社会保障等の問題について経済学的思考を用いて理解する。 3　市場メカニズムの長所と短所を理解する。	2	15	1	○			○			○	
3	○			心理学	心理学の基本的理論として、「感覚・知覚」「記憶・学習・思考」「動機・感情」「ストレス・健康」の４つの領域について理解を深める	1	15	1	○			○			○	
4	○			情報ﾘﾃﾗｼｰと処理技術	コンピュータ、および文書作成（ワープロ）、表計算、プレゼンテーションの基礎・基本を習得し、情報活用能力の向上を図ることを目的とする。	1	30	2		○		○			○	
5	○			英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ	言語はコミュニケーションの道具である。英語という言葉を使って、園児や保護者とのコミュニケーションをとれるよう園生活の具体的な場面で使われる英語表現を学び、身につける。	1	30	2	○			○		○		
6	○			健康科学	生命の基本的な理念、体力の保持増進、健康の意義を理解し、現代社会に於いていかに健康の保持増進について図っていくか学習し、生涯を通じた健康作り、体力つくりの必要性について理解する。	1	15	1	○			○			○	
7	○			スポーツ（実技）	運動・スポーツをとおして健康の意義を理解し、現代社会に於いていかに健康の保持増進を図っていくか学習し、スポーツ（実技）生涯を通した健康づくり、体力づくりの必要性について理解する。	1	30	1			○	○			○	
8	○			保育原理	保育所保育指針の内容を理解し、基本を踏まえた保育の展開や保育の質と専門性の向上について学ぶ。また、保育の歴史的背景から現状までを考察し、多様な保育ニーズについて理解を深める。	1	30	2	○			○		○		

9	○			教育原理	教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が営まれ、邉箭してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関わる社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。	1	30	2	○			○			○	
10	○			こども家庭福祉	こども家庭福祉の意義と歴史的編成について理解するとともに、望ましい保育者になるために、現代社会においてこどもや家庭を取り巻く環境や制度と支援の実際について学ぶ。	1	30	2	○			○			○	
11	○			社会福祉論	社会福祉の意義と歴史的邉筵について学びを深めながら、保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義、理念、制度や実施機関、援助方法について学ぶ。	1	30	2	○			○			○	
12	○			こども家庭支援論	家庭の機能と変遷、家庭の現状を説明し、儼の持てる力を十分に発揮できるような環境づくりや親が主体的に子育てにかかわれような方策について、地域や社会的な観点から具体的に学ぶ。また、保育者の立場から具体的な支援を考察する。	2	30	2	○			○			○	
13	○			社会的養護Ⅰ	子どもや子育ての家庭の現状及び課題に目を向けながら、社会的養護の歴史的変遷や理念、わが国における施策及び靹体制について学ぶ。	1	30	2	○			○			○	
14	○			教職論	教職（保育）の意義、教職者（保育者）の役割・資質能力・職務内容等について理解を深める。さらに、教職（保育）は、子どもの成長発達に指導、援助するしごとであることを理解し教育（保育）への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき教職（保育）のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立を図る。	1	30	2	○			○			○	
15	○			発達心理学	乳幼児期の発達を中心に、発達理論に基づき乳幼児期の特徴と各領域の発達の様相を学ぶと同時に、各発達期の課題、発達支援のあり方についても理解する。	1	30	2	○			○			○	
16	○			こどもの発達と家庭支援	心理学の基礎的な知識と、子どもの初期経験や発達課程及心の健康に関わる問題についても学び、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解をし、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	1	30	2	○			○			○	
17	○			こどもの理解と相談支援	相談支援の究極的な目的は、子どもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応ん度について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び様々な心理アセスメントの内容・活用について理解する。	2	30	2		○		○			○	

18	○			こどもの保健	子どもの心と身体の健やかな成長を保持・増進させるため、保育現場に即した知識と子どもの発達の過程や特徴を踏まえた保健的対応の具体的方法について学ぶ。	2	30	2	○			○			○	
19	○			こどもの食と栄養	食生活を通して、子どもの生活全般や環境の望ましい姿について解説する。乳児教育に携わるものとして、食育の実践、その他、子どもの食生活に対する配慮について学習する。また、献立作成、食育の媒体づくりを学習し、子どもと食について実践力をつけながら広く学ぶ。	2	30	2		○		○			○	
20	○			教育課程論	教育課程編成に関する法体系や学習指導要領（幼稚園教育要領・保育所保育指針）の変遷を知り、教育課程・保育の基本や教育の歴史とともに、教育をめぐる諸問題について学ぶ。そして、こどもを育てる上で、大切なこと（目標）、どのような方法・手立て（方針）、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。	1	30	2	○			○			○	
21	○			保育内容総論	領域別の授業で学ぶ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、用意筵教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実例をもとに解説する。	1	15	1		○		○		○		
22	○			こどもの指導法「健康」	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に合わせた配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながらこどもの積極的な健康指導ができる能力を養う。	2	15	1		○		○		○		
23	○			こどもの指導法「人間関係」	子どもを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における要領「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりを通した人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。また、保育者としてどのように子どもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者としてのこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども―養育者、ども―保育者、保育者―養育者、さらには保育者―保育者という様々な関係について考察していく。	1	15	1		○		○		○	○	
24	○			こどもの指導法「環境」	子どもの生活における「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」について学び、子どもが様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ、思考力・創造力等をいかに学んでいくかを解説する。また、環境とは何かを理解しそこのどうかかわるかを中心に、保育現場における具体的事例を上げて学習していく。	2	15	1		○		○		○	○	
25	○			こどもの指導法「言葉」	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、子どもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文学への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児の言葉を獲得することの意義を探求する。	1	15	1		○		○		○	○	
26	○			こどもの指導法「リズム表現Ⅰ」	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として祀領域での知識や技能と関連させながら、子どもにとっての表現についてその意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学習する。	1	15	1		○		○			○	

27	○			こどもの指導法「造形表現」	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と制作体験とを関連づけながら学習を深める。	1	15	1		○		○			○	
28	○			こどもの指導法「音楽表現Ⅰ」	領域「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」を理解し、乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の在り方を学ぶ。また、後半では、映像視聴による身近にある音風景への気付きと表現方法を理解し、具体的な実践につなげられるようにする。	1	15	1		○		○			○	
29	○			こどもの指導法「音楽表現Ⅱ」	乳幼児の声の発達を理解し、それに応じた表現活動の在り方を様々な歌や音楽遊びの実践を通して学ぶ。また、領域「表現」と他の領域との関わりを理解し、指導計画に基づいた模擬保育の進め方について学ぶ。	2	15	1		○		○			○	
30	○			こどもと造形	造形の基本的な理論を学び、発達年齢に応じた子どもの遊びを豊かに展開するために必要な造形表現に関する知識や技術を取得する。様々な教材をもとに、それらの特性を活かして創造工夫しながら、保育環境と表現活動とを結びつけるための政策の知識・技術を習得する。	1	15	1		○		○			○	
31	○			表現とこどもの運動	子どもの表現遊びが年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。	1	15	1		○		○			○	
32	○			こどもの指導法「言語表現」	幼稚園教育要領・保育所保育所保育指針における「表現」と幼児の心の表現を学び言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。	2	15	1		○		○			○	
33	○			乳幼児保育Ⅰ	「乳幼児保育」おもに3歳未満児の保育を念頭において、発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解を深めると同時に、乳幼児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。	1	30	2	○			○		○		
34	○			乳幼児保育Ⅱ	養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、演習を通じて具体的に理解するとともに、乳幼児保育における保育の実際と配慮事項について理解を深める。	2	15	1		○		○		○		
35	○			こどもの健康と安全	保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、感染症対策について学ぶとともに、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に学んでいく。	2	15	1		○		○		○		

36	○			障害児保育Ⅰ	障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児の特性及びその保育の内容について学ぶとともに、障害児の個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について学ぶ。	1	15	1		○		○			○	
37	○			障害児保育Ⅱ	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について学ぶとともに、子どもの家庭への支援や関係機関との連携-協働について学び、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。	2	15	1		○		○			○	
38	○			社会的養護Ⅱ	施設養護及び家庭養護の実際について解説する。それふまえて、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際、相談援助の方法・技術、子どもの虐待の防止と家庭支援等について具体的な事例をもとに学習する。	2	15	1		○		○			○	
39	○			子育て支援	保育士の行う子育て支援について、その意義と原則を解説し、保護者との信頼関係を築くための基本姿勢を学習・考察する。また、子育ての事例を通して、地域の専門機関との連携も踏まえた支援の進め方について具体的に学ぶ。	2	15	1		○		○			○	
40	○			保育実習Ⅰ（施設）	保育所以外の児童福祉施設等において、観察及び直接の関わりを通して、子どもや施設利用者への理解を深めるとともみ、既習の教科目の内容を踏まえ、支援の計画・観察・記録及び自己評価について具体的に学ぶことを通して、子どもや利用者への支援についての総合的な知識の理解と実践力の養成につなげる。	1	90	2			○	○		○		
41	○			保育実習Ⅰ（保育所）	保育所における観察及び直接の関わりを通して、子どもへの理解を深めるとともに、保育所の役割や機能を具体的に理解する。また、既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。	1	90	2			○	○		○		
42	○			保育実習指導Ⅰ（施設）	実習事前指導において、保育実習Ⅰ（施設）で取り組む実習内容を把握し、自らの実習課題を明確にするとともに、実習における心構えと実習の計画・実践・記録・評価の方法や内容について具体的に学ぶ。事後指導においては、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。	1	15	1		○		○		○		
43	○			保育実習指導Ⅰ（保育所）	保育士養成課程における実習の位置づけとともに、保育実習Ⅰ（保育所）の意義・目的および内容を解説する。また、事前指導において、保育実習Ⅰ（保育所）で取り組む実習内容、留意事項、計画・実践・観察・記録・評価に基づいた保育の実践について学ぶ。事後指導においては、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。	1	15	1		○		○		○		
44	○			保育・教職実践演習	既習の授業で学んだ知識と実習での経験によって形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題について考察・自覚する。さらに、保育士及び幼稚園教諭としての生活を円滑にスタートできるように、現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。	2	30	2		○		○		○	○	

45		○		人間関係論（保育士・幼稚園教諭コース）	現代の子どもの人間関係の育ちに影響を与えている釈迦的要因について理解し、幼児保育（教育）で保証すべき保育内容に関する知識を身に付ける。子どもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関りを通じて育つことを学ぶ。	1	15	1	○			○		○		
46		○		教育心理学（保育士・幼稚園教諭コース）	教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理的な考え方を紹介する。「発達」では、幼児期までの発達的特徴や遊びを通した変化について、「学習」では、動物実験を基礎とした学習理論や、実際の教育現場での指導・評価方法について解説する。	1	30	2		○		○			○	
47	○			特別支援教育	特別な教育的ニーズを持つ子どもを支援するにあたって、子ども自身の特性を理解するのはもちろん、子どもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。	2	15	1	○			○			○	
48	○			こども学概論	こども学の成り立ちを知り、諸々の学問領域（医学・心理学・教育学・社会学・文化人類論など）に由来する「こども」に関する知見を統合することによって、「こども」の実際により近づくいことを目指す。	1	30	2	○			○		○		
49	○			こどもの指導法「音楽表現Ⅲ」	模擬保育の計画・実践を通して、様々な音楽表現活動の具体的な指導方法を学ぶとともに、指導案の討議を行い保育活動の音楽表現による構成についての理解を深める。また、小学校の教科「音楽」への学びの連続性について学ぶ。	2	15	1		○		○			○	
50	○			環境論	子どもを取り巻く具体的な環境枠を示しながら、それらと子どもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味をしっかり学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身につけるために、様々な環境との出会いに気づき、その意味を理解できるように深く学ぶ。	2	15	1	○			○			○	
51	○			造形表現論	幼児造形の指導・援助者として求められる形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について学習する。また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。	1	15	1		○		○			○	
52			○	健康論	乳幼児の運動発達における大人との相違について映像資料や事例を活用し、乳幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できるようにする。また、乳幼児の子どもたちの健康に関する知識と発育・発達について学ぶ。	2	15	1		○		○			○	
53	○			こどもとリズム表現Ⅱ	子どもの活動を導くため、領域をまたがる知識・技術をより身に付ける必要があることを理解し、その上で表現する力を育てる必要性を実践で学んでいく。具体的には、音楽の基礎知識を深めて、子どもの身体表現や音楽表現による表現力を育てるための指導方法を学ぶ。	1	15	1		○		○			○	

54	○			こどもとリズム表現Ⅲ	歌・手遊び・リトミック等、保育所や幼稚園において必要な湧諺音楽を実践を通して学ぶ。また、器楽演奏や季節の行事に合わせて、音楽表現や身体表現を主とした実践に取り組むことで、子どもの表現力を育てるための指導方法を学ぶ。	2	30	2		○		○			○	
55	○			幼児造形	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と制作体験とを関連づけながら学習を深める。	2	15	1		○		○			○	
56	○			こどもと音楽表現Ⅳ	保育における音楽活動の実践力を付けるために演奏技術を向上させ、曲目の知識を増やす。こどものうたの弾き歌いや伴奏法を学ぶとともに、様々な楽器の演奏を通して、正しい楽器の演奏の仕方を学び、保育に活かして発展させていけるよう技術を身につける。	2	15	1		○		○			○	
57		○		保育実習ⅡＡ	保育所の役割や機能について理解するとともに、保育実習Ⅰでの学習内容を踏まえ、子どもの観察や関わり等具体的な実践を通して、保育について理解を深める。また、保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。（保育士・幼稚園教諭コースのみ開講　保育実習ⅢＡとのいずれかを選択）	2	90	2			○	○		○		
58		○		保育実習ⅡＢ	保育所の役割や機能について理解するとともに、保育実習Ⅰでの学習内容を踏まえ、子どもの観察や関わり等具体的な実践を通して、保育について理解を深める。また、保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み理解を深めるとともに、既習の教科目による知識や技術を生かした実践を行い、事故の課題を明確にする。（保育士コースのみ開講　保育実習ⅢＢとのいずれかを選択））	2	##	3			○	○		○		
59		○		保育実習ⅢＡ	児童福祉施設等の役割や機能について理解するとともに、保育実習Ⅰでの学習内容を踏まえ、具体的な支援の実践を通して、利用者及び支援内容についての理解を深め、施設における支援について総合的に理解する。（保育士・幼稚園教諭コースのみ開講保育実習ⅡＡとのいずれかと選択）	2	90	2			○	○		○		
60		○		保育実習ⅢＢ	児童福祉施設等の役割や機能について理解するとともに、保育実習Ⅰでの学習内容を踏まえ、具体的な支援の実践を通して、利用者及び支援内容についての理解を深める。特に個別支援の在り方については、支援計画についての学びを深め、施設における支援についての総合的理解につなげる。（保育士コースのみ開講　保育実習ⅡＢとのいずれかを選択）	2	##	3			○	○		○		
61		○		保育実習指導Ⅱ	事前指導においいては保育実習Ⅱで取り組む実習内容を把握し、自らの実習課題を明確にするとともに、保育実習Ⅰや既習の教科目の内容およびその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。事後指導においては、実習での体験のまとめを行い、事後の学習への課題を明確にする。（保育実習指導Ⅲとのいずれかを選択）	2	15	1		○		○		○		
62		○		保育実習指導Ⅲ	事前指導においては、保育実習Ⅲで取り組む実習内容を把握し、自らの実習課題を明確にするとともに、保育実習Ⅰや既習の教科目の内容およびその関連性を踏まえ、支援の実践力を習得する。事後指導においては、実習での体験のまとめを行い、事後の学習への課題を明確にする。（保育実習指導Ⅱとのいずれかを選択）	2	1	15		○		○		○		

63		○		教育方法論（保育士・幼稚園教諭コース）	初等中等教育（小学校・中学校を中心とする）と幼児教育（幼稚園、保育園）を対象として、その中で行われる教育の方法・内容についての理論的かつ実践的な理解を深める。（保育士コース未開講）	1	30	2	○			○			○	
64		○		教育実習（保育士・幼稚園教諭コース）	1　幼児の観察や関わりを通して、幼児への理解を深める。 2　幼稚園教諭の専門性と職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 3　幼稚園教諭としての自己の課題を明確化する。 （保育士コース未開講）	2	##	4			○	○		○		
65		○		幼児教育実践	うた、リズム運動、手遊び、絵本読み、制作活動等、幼児教育現場において求められる技術について、実践を通して学ぶ。 （保育士コース未開講）	2	##	9		○		○		○		
66		○		教育実習事前・事後指導（保育士・幼稚園教諭コース）	1　幼児教育の基礎理論・技能を学ぶ。 2　教職の専門的知識や技術を学習し、教育現場で応用し得る力を要請する。 3　保育者としての自覚や使命感を身につける。 （保育士コース未開講）	1	15	1		○		○		○		
67	○			卒業研究	幼稚園における教育課程の意義、遊びを通した保育のあり方やその意義、幼小連携の意義などについて、教育実習での体験を踏まえて自らまとめ、有用な知識とする。	2	30	2		○		○		○		
68	○			保育制作Ⅰ	保育園や幼稚園で使用される、エプロンシアター、パネルシアター、紙芝居などの視覚的教材を制作し、それを用いた保育の展開の仕方を学ぶ。また、設定活動を行う際の導入や指導技術を身につける。	1	30	2		○		○		○		
69	○			保育制作Ⅱ	・保育の現場で必要となる制作活動の指導方法を実践を通して学ぶ。 ・創作活動・表現活動に必要な技術と知識、保育者としての指導能力を身につける。	2	15	1		○		○		○		
70	○			音楽表現論	1　保育内容を理解し、日々の活動に音楽を活かすために必要な基礎的な理解や技術を学ぶ。 2　音楽の楽しさを子どもたちと共有できるような基礎力を学ぶ。	1	15	1		○		○			○	
71	○			こどもと体育	子どもの生活の中心は「遊び」であり、その大部分は「運動遊び」である。そして何よりも楽しくなければならない。子ども自らが「遊び」と取り組むことが大切である。そのためには指導者が多くの運動遊びの指導方法を理解し、年齢や環境に応じて子どもたちに提供できなければならない。このことから、講義・実技をとおして、発育発達に即した指導法を身につける。	2	15	1		○		○			○	

72	○			障害者支援論	所外の有無にかかわらず、人間として地域の中で共に寄り添って暮らすことのできる社会の構築を目指すため、その方法を探り実践に結びつける方策を見出すことを目的とする。	2	15	2		○		○			○	
73	○			保育実習対策Ⅰ（施設）	職場体験を通じて施設職員としての仕事をする上で必要な知識、技術、援助技術の内容を理解する。講義、演習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用差が求めている社会福祉の需要に関する理解力、判断力を養う。	1	15	1		○		○		○		
74	○			保育実習対策Ⅰ（保育所）	保育実習における計画や記述などの方法を学ぶとともに、社会人として必要とされるマナーや知識、実習生としての学び方や配慮などを習得する。	1	15	1		○		○		○		
75	○			保育実習対策Ⅱ	保育所の保育を理解し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得するとともに、実習を円滑に進めていくための知識・技術および課題を明確化する。	2	15	1		○		○		○		
76		○		教育実習対策Ⅰ（保育士・幼稚園教諭コース）	1　教育実習の意義を理解し、自己課題を設定する。 2　幼稚園教諭として必要な資質を学び、保育を構築・実践する力を身につけ、実習を通して、新たな課題や学習目標を明確にする。 3　幼稚園教育の楽しさ、むずかしさ、やりがいを感じ、幼稚園教諭への希望を高める。 （保育士コース未開講）	1	15	1		○		○		○		
77		○		教育実習対策Ⅱ（保育士・幼稚園教諭コース）	1　幼児理解に基づいて指導計画を立案・交流し、指導について検討する。 2　教育実習の成果と自己評価の交流を行い、今後の課題を確認する。 （保育士コース未開講）	2	15	1		○		○		○		
78	○			卒業研究Ⅱ	２年間で学んだことを活かし、総合的な創造力・表現力を身につけるとともに、表現することを通して、保育者としての指導力を養う。	2 後	30	2		○		○		○		
79	○			卒業研究Ⅲ	・２年間で学んだことや、これまでに各自で培ってきた力を発揮し、オペレッタの効果的な舞台美術を作ることができる。 ・２年間で学んだことを生かし、総合的な想像力、表現力を身につけるとともに、表現を通して保育士としての指導力を養う。	2 後	30	2		○		○			○	
80	○			こども音楽表現Ⅴ（保育士コース）	・保育内容を理解し、保育の中に音楽を用いて活動ができるようになるために必要となる技術を学ぶ。 ・弾き歌いの技術とそのために必要なピアノの技術を学ぶ。	1 後	15	1		○		○			○	

81	○			こども音楽表現Ⅵ（保育士コース）	・保育の現場で音楽を通しての活動ができるように技術の向上やレパートリーを増やしていけるようにする。 ・実習や就職試験に向けての技術を学ぶ。 ・歌うこと、楽器を演奏することによって、音楽の楽しさを体験し、保育に活かし発展させていけるよう技術を学ぶ。 （保育士コース必修）	2 後	15	1		○		○			○	
82		○		児童館・放課後児童クラブの機能と運営（保育士コース）	近年地域社会において、児童が遊びや集団活動をする安全で適切な「居場所」が少なくなってきている。授業では、こどもに健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする児童福祉施設である児童館の歴史、目的、役割、現状と課題を学ぶ。 （保育士コース必修）	1	30	2	○			○			○	
83		○		児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ（保育士コース）	児童ソーシャルワークをベースとした児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れとともに、行事の企画や利用者への対応、地域とのかかわりなどについて学び、児童館・放課後児童クラブの活動を理解するとともに、実習に向けたイメージと現場で活用できるよう実践活動を主軸に行う。 （保育士コース必修）	1	30	2		○		○			○	
84		○		児童館実習（保育士コース）	1　児童館・放課後児童クラブの実習を通して、実際に業務を体験することで、児童館・放課後児童クラブの機能・役割と具体的な活動について理解する。 2　児童厚生員の職務を理解する。 （保育士コース必修）	1	80	2			○	○	○	○		
85	○			手話Ⅰ	1　日常会話における手話を習得し簡単な会話ができるようになる。 2　聴覚障害について理解し、聴覚障害者の生活について、手話の習得を通して知識を得る。 3　手話を使った歌やゲームなど、保育の中で応用する力を身につける。	1	15	1		○		○			○	
86		○		手話Ⅱ（保育士コース）	1　日常会話における手話を習得し簡単な会話ができるようになる。 2　聴覚障害について理解し、聴覚障害者の生活について、手話の習得を通して知識を得る。 3　手話を使った歌やゲームなど、保育の中で応用する力を身につける。 （保育士コース必修）	2	15	1		○		○			○	
87		○		体育（保育士コース）	1　身体活動を通して、心身の健康保持の大切さを知る。 2　体力の向上とともに、公正・協力・責任者などの態度を育成する。 3　生涯を通して、生活を豊かにするために、スポーツに親しむ能力を育成する。 （保育士コース必修）	2	15	1		○		○		○		
88		○		環境Ⅱ（保育士コース）	身近な自然環境についての知識を身につけ、子どもたちの自然への興味や関心を引き出す環境づくりを行う力を身につける。 （保育士コース必修）	2	15	1		○		○		○		
合計					88　科目				2611 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき学科目につ	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	座学・演習・実技	１学期の授業期間	20 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。